

論文の内容の要旨

論文題目 **A Study on the Evolvement and its Characteristics of Waterways in Suzhou through Analysis of Historical Maps—The Unconscious Forgetting and Memory of Waterways in Agrarian City**

(古地図に見る蘇州の水路の変遷とその特徴 ～農業文明都市の水路に関する失われた記憶)

氏名 張光玮

歴史的に、中国では、水路は常に多義的な機能を有しており、特にその中でも、舟運の交通路・灌漑用水としての役割が重要であった。しかし、農耕文明が近代的な手段と価値によって脅かされる中で、無数に張り巡らされた水路は、不要なものとして、急速に姿を消していった。しかしながら、近年の新たな都市開発の流れによる緊急的要請の中で、私たちは今、世界的な水路再生の現場に立ち会っている。

本研究論文は、「失われた水路」に対する人々の潜在的な記憶に着目し、それらの痕跡を捉えることで、人々の水路に対する無意識を意識化することを目的とし、具体的には、蘇州の古地図による水路の詳細な分析を通じて 歴史的変遷及びその特性を把握する。これまでも古地図を用い蘇州の水路の変容を部分的に明らかにした既往の研究は、いくつか見受けられるものの、1229年から2009年までの19世紀間を通じ、水路の地理的位置を特定し、一つの地形図上に統合したものを基に、その変容を論じたものはなく、本研究独自のものである。

本研究の分析は以下の手順で進められた：

1. 古地図に記述された場所情報及び周辺施設の配置に基づき、水路の位置を特定した。
2. それら各時代の水路網を現在の地形図上に落とし込み、一つの地理的基準の中で古地図を並列に扱えるよう補正した。
3. 単体の古地図だけでは読み取れない水路の状況を、古地図相互の関係の中で把握し、さらに文献に照らし再調整を試みた。
4. さらに重ね合わせ統合された古地図からは、水路延長の歴史的変遷及び特定の場所における水路の変容について考察を加えることで、18世紀と20世紀の主だった二つの時期における水路縮小の要因について論じた。
5. また、加えて蘇州の各時代の郷土史料を参照し、水路変遷の理解に関連する農業形態の変容・水路の維持管理・地勢・社会・経済・人口変動及び、特に蘇州において顕著に現れる中国の都市文化や政治史について、さらなる文献調査を行った。

以上の考察より導かれた本研究の結論は、以下の通りである：

1. まず扱った古地図の中には、それが描かれた当時の水路の状態が正しく反映されていないものが存在し、特に1639年の古地図（一般的に蘇州水路の黄金期として取り上げられる時代の地図）は、郷土誌の記述により16世紀初頭の様子を描写したものであることが明らかとなった。
2. 蘇州における水路の衰退が最も劇的に現れるのは、16世紀から17世紀にかけてと、1958年から1972年にかけての二時点であり、本論において各々を「慢性的な減退(Chronic-Decrease)」、「劇的な減退(Disruption)」と定義し、その要因を推定した。
3. 水の都市の起源は、農耕社会の伝統に深く根ざしている。都市の水路は、以下2つの理由による行政的事情によって維持されてきた。即ち、a) 水が作物栽培のための基本的資源であると同時に富の源であったこと、b) 前近代の都市化において、儒教思想をベースとした帝国時代のエリート層の関心が田園生活に求められ、自主的な水の維持が極めて自然に継続されてきたことによる。以上のより導かれた本研究の結論は、「観光」と「ノスタルジー」が主として強調される傾向にある昨今の水路再生計画を中心とした近代の都市開発が見落としてきた、中国水路におけるかつての「失われた記

億」を提示することとなった。